

Invited Keynote Speakers Profiles

招待基調演者プロフィール

Martin Ashley

英国 マンチェスター大学付属歯科病院修復歯科学コンサルタント

Effective dentine hypersensitivity therapy: review of new technology and evaluation of Patient based outcomes

効果的な象牙質知覚過敏症治療：新技術の検証と患者立脚型アウトカムの評価

Martin Ashley はリバプールで資格を取得しシェフィールドとレスターで専門訓練を修了した。氏はマンチェスターの大学附属歯科病院の修復歯科学のコンサルタントを務めており、歯周病学、歯数不足症および口唇口蓋裂に臨床的興味を持ち、また臨床管理とヘルスケアの品質向上の指導的役割を担っている。氏は大学および大学院の現役の教師でもあり、オルトリナムの個人自由診療の専門家、英国外科医師会の修復歯科学の調査員、専門アドバイザーでもある。このセッションでは象牙質知覚過敏症の効果的な治療を可能とする新技術の検証により患者の視点から象牙質知覚過敏症を評価する。

ラーニングアウトカムズ

1. 患者の視点から象牙質知覚過敏症の影響を理解する。
2. 象牙質知覚過敏症の効果的な治療のための新技術を発見する。

Jeremy Bagg 教授

スコットランド グラスゴー大学臨床微生物学教授・歯科学部長

Challenge and change in infectious diseases: a global issue

伝染病における課題と変化：地球規模の問題

Jeremy Bagg は1979年エディンバラの大学で口腔外科学士（優等学位）の資格を取得、その後エディンバラ医科大学細菌学科のレキー・マクティエ研究団体会員に任命され、1982年にはバクテリア付着のメカニズムの研究に基づいて博士号を授与された。1983年から1991年までカーディフ歯科学校で内服薬および口腔病理学の講師を務め、その後グラスゴー大学に着任、現在は同校の臨床微生物学教授および歯科学部学長を務めている。同氏はまたスコットランド政府衛生省の国立歯科諮問委員会の現委員長でもある。教授は全身性疾患、医学的障害による口腔伝染病、口腔外科における感染予防および公衆衛生微生物学の役割に研究的興味を抱いており、2冊の教科書を共同で作成、また科学論文に130以上の論文を発表している。この講義では特にデンタルケアの演説に直接関連した課題に関係する伝染病疫学の最新の傾向を提供する。全体的な課題の性質を重視しインフルエンザや薬物耐性結核などのプレゼンテーションを行う。血液感染性ウイルスの最新情報も提供し、特に職業的後天性感染、感染者への治療の制限および治療の進歩に関するプレゼンテーションを行う。機器汚染除去に対するプリオン病の影響を調査し、歯科治療中にスタッフ・患者の双方にもたらす全体的な感染の概要およびこういったリスクを防ぐために取られる非常に効果的な措置について報告する。

ラーニングアウトカムズ

1. ヘルスケアの演説で伝染病のリスクに関する最新情報を提供する。
2. 職業的後天性感染のリスクの高さを特定する。

3. 歯科機器汚染除去における現在の優れた実践を知る。

Mary Lynn Bosma 博士

アメリカ グラクソスミスクライン社アクアフレッシュ口腔衛生ディレクター

Everything you wanted to know about consumer products but were afraid to ask

消費者製品について知りたいが怖くて聞けないことすべて

Mary Lynn Bosma は歯科学博士号をオハイオ州立大学にて、また歯科衛生学士をニュージャージー医科歯科大学にて取得した。博士はアクアフレッシュ連の新製品および従来の製品の臨床クレームプログラムを監督する責任者であり、かつて大手2つのメーカーに勤務しホワイトニング、歯周炎、歯周病、ステイン、カリエスといった分野の製品をテストする臨床試験の立案・実行に携わっていた。さらに、同博士は口腔ケア製品メーカーの製品をテストするオハイオ州シンナティの民間歯科研究施設のディレクターを務めていた。どの製品が最適かという患者からの質問に答えることができるようになる。何が嘘で何が実証済みのデータに基づくのか。企業はどのようにして製品を開発するのか。このプレゼンテーションでは口腔ケア製品に対するクレームの開発、テスト、確立を紹介する。

ラーニングアウトカムズ

1. 消費者向け口腔ケア製品の開発における産業の機能への基本的な理解を得る。
2. 目にする研究を評価する技術を身につける。

Kimberly Krust Bray 教授

アメリカ ミズーリカンザス市 (UMKC) 歯科大学 歯科衛生学部教授ディレクター

Managing the systemic oral health connection: a new model for changing health behaviours

システム的な口腔保健管理：健康志向の変化に対応するための新しいモデル

Kimberly Krust Bray は、現在通信教育課程の3年制と2年生の指導と運営を行っている。教授は一般と歯周病の分野において24年の実務経験を持っている。あわせて、専門教書の章を何冊も執筆し、数々のサイエンティフィックジャーナルに記事を発表している。数例あげると、デンタルリサーチジャーナル、デンタル教育ジャーナル、歯科衛生ジャーナル、ペリオドントロジージャーナル、歯周病学におけるカレントオプション、デンタルスペシャルケア、そして顎顔面移植ジャーナル等である。

Kimberly Krust Bray は、国内と海外で数々の生涯学習プログラムで講演も行っている。教授は、シグマフィアルファナショナル歯科衛生優等生協会の前会長でもあり、アメリカ衛生士協会口腔インスティテュートのグラントレビュー委員会リサーチに務めていた。2002年に、UMKC 歯科衛生士同窓会業績賞の受賞をし、彼女の出版と研究をプロダクト効果、人間工学、モチベーションインタビュー (MI) とその他の学習戦略において評価された。

この十年で、文献の増加が糖尿病を含む歯周病と炎症の関連を示す分野で多くみられるようになった。血糖コントロールと歯周炎症の相互関係は、患者に口腔衛生のみならず糖尿指標の管理を必要とし、それにより患者の口腔衛生状態を向上させる。しかしながら、保健専門家の指導や提案を順守するか否かの研究では、30%~60%の患者が1時間以内にその内容を忘れてしまい、50%の患者においては従っていないということが分かった。(DiMatteo,2002)

数々の理論と戦略は、更生行動で指摘されているが、改善された順守行動の様子は行動に焦点が置かれるときよりも認識に焦点が置かれる場合にみられる。現代のクライアントによるモチベーションインタビュー (MI) は、行動変化を促進

することにカウンセリングのスタイルの焦点を置き、潜在的なモチベーションを高めるため両面性を診察し解決する。(Miller&Rollnick, 2002) 本来、習慣性セラピー分野が発達し、モチベーションインタビュー (MI) はますます保健専門家に応用され糖尿コントロールにおける成功的な結果をもたらす主軸となっており、口腔保健に重大な影響を与えている。このプレゼンテーションの目的は、いかにして簡単なモチベーションインタビュー (MI) が健康リスクと健康に対する患者の行動変化について患者と対話し、糖尿病患者の口腔保健に良い結果をもたらすことができるかを調査することである。

ラーニングアウトカムズ

1. 糖尿病患者のリスク評価と行動変化に必要な MI の重要要素を理解し応用する。
2. 歯科と歯科衛生実務におけるモチベーションインタビュー (MI) の導入の初期計画を発展する。

Iain L.C. Chapple 教授

英国 バーミンガム大学

Getting the message across and the role of personalized biofeedback

メッセージと個々の生体フィードバックの役割

Iain L.C. Chapple は、国際デンタルリサーチ協会の歯周病リサーチグループの前会長であり、現在、ヨーロッパ歯周病学連盟の財務部長、歯周病学関連の7巻の教書著者、歯周病リサーチジャーナルの共著者、ペリオドントロジー2000 及びクリニカルペリオドントロジーの編集委員として活躍している。

このセッションでは、患者行動更生への伝統的なアプローチの限界を説明し、臨床結果の向上を目指す。さらに、リペアモデルからウェルネスモデルへの口腔ケアに対する我々の論理的なアプローチのパラダイムを変えていく必要性を強調する。特に、個々の知的生体フィードバックの必要性は、今までにない技術を用いて説明し、患者のモチベーションと効果に焦点をあてる。このディスカッションには、相互作用的な口腔衛生指導と患者モチベーションにおけるリアルタイムのリスク予防法の概要、喫煙と歯磨きトラッキングを調査し、視覚技術を使って説明する。

ラーニングアウトカムズ

1. 口腔、歯周病の成功的な管理における行動変化の徹底の必要性を評価する。
2. 臨床心理で使われるターミノロジーに慣れる。
3. 手術における生体フィードバックを促進する最先端技術に慣れる。
4. 精巧に意匠し個別化したメンテナンス計画による長期の歯の健康状態に関する実証例を知る。
5. 口腔外科手術における承認された行動変化の心理モデルを採用する立場に立ってみる。

Mike Clarke 博士

英国 デンタルプロテクション社、シニアデント リーガルアドバイザー

So you call yourself a professional – is that right?

では、あなたは自身を専門家と呼ぶのですね。——それは正しいでしょうか？

Mike Clarke は、1979年に Cardiff にて資格を取得し、最近までノースヨークシャで実務に従事していた。長きにわたり、歯科分野で活発な活動を行い、現在デンタルプレスへ定期的に情報を提供している。博士はデンタルプラクティショナー協会の前会長であり、技術専門家訓練で長く関わっている。ヘルススタンディングデンタル諮問委員会部の前会員で

あり、イギリスデンタル協会のプライベート委員の副会長でもある。Mike Clarke は、最近ではグラスゴー大学から薬学哲学の分野でマスターの称号を得た。

過去数年で、実際に世界各国では、デンタルチームがようやく目の目を見、特に衛生士とセラピストにおいては、一般にみられるようになり、歯科医師のために働く者ではなく、自身の権利として専門的な臨床士としての認識を得ている。

しかしながら、“専門家”という言葉にはそれなりの基準と責任がついてくる。とかく専門家といわれる基準は、他人がどう見るかによって判断され、彼ら自身の仕事の基準では判断されないのである。

- ・専門家とそうでない境界は何であるか。
- ・その境界はいつ交差するのか。
- ・はたしてその必要があるのか。
- ・臨床士自身とプライベートライフの妥当な境界はどこか。
- ・プライバシーと個人情報に臨床士は関与できないのか。

世界中のデンタルプロテクション社から集めた例を使い、Mike Clarke はデントリーガルの視点からみたプロフェッショナルリズムの重要用域について提示し、論点を述べ、実務チームが安全に職務を遂行できることを確約するための戦略を提供する。

ラーニングアウトカムズ

1. プロフェッショナルリズムの重要要素を認識する。
2. 専門家としての責任を理解する。
3. 専門家と非専門家を定義する境界を知る。

Fiona M. Collins 博士

インターナショナル スピーカー

Enamel therapy: strategies for prevention

エナメルセラピー：予防の戦略

Fiona M. Collins は、歯科専門家及び学生に対し、社会人教育コースを国際的に講演、執筆を行い、臨床歯科、教育、専門関連における地位の維持し、ヨーロッパ、中東、アメリカで活躍している。

一般歯科基金戦略委員アカデミーのメンバーであり、アメリカデンタル協会、オランダデンタル協会、イギリスデンタル協会、国際デンタルリサーチ協会、及び無菌工程と安全組織のメンバーでもある。 Fiona M. Collins 博士は、スコットランド・グラスゴー大学を卒業し、アメリカのボストン大学で MBA と MA を取得している。

このプレゼンテーションでは、世界の齲蝕傾向の概要、齲蝕のリスク評価ツールおよび齲蝕予防のためのメディカルモデルへの移行について説明し、のちにエナメル保存と再石灰化の保護戦略について議論する。

フッ化物を含むシステムについての説明、リスクグループでの齲蝕予防の比較効果と安全性についても講演する。また、ACP カルシウムとリン酸塩技術の役割に加え、一般保健機関の予防手段の使用と、個人のデンタルクリニックについても触れる。

ラーニングアウトカムズ

1. 齲蝕の傾向と有病率の人口統計データの理解をする。
2. 低侵襲歯科における考え方の変化を理解する。
3. 齲蝕のリスクのファクターと入手可能なリスク評価ツールを知る。

4. 予防セラピーが有効な患者の見分けが可能になる。
5. 現在の予防セラピーとデリバリーシステム、フッ化物とカルシウム、リン酸塩技術について論じる。

Christof Dorfer 教授

ドイツ キール大学 歯科保存学と歯周療法学教室長

Oral and systemic link

口腔と全身との関連

Christof Dorfer は1986年の卒業から2006年までハイデルバークのルプレクトカール大学に勤めていた。この20年の間、歯科保存学教室の研究員として、それから准教授を経験した。

ルプレクトカール大学在任中、ミネソタ大学の生物物質・生物力学のミネソタリサーチセンターを数回訪問している。2002年、彼の論文「Associations between periodontitis and ischaemic apoplexia (歯周病と脳卒中との関連)」がヨーロッパ連邦の歯周病ジャカード賞を受賞した。その後彼はドイツのオーラルケア製品の開発グループの指導をした。そして、2005年より国際規格機構 (ISO) のオーラルリンスや補助装置開発グループのリーダーである。2006年、キール大学の現在の地位に任命された。

ラーニングアウトカムズ

詳細は講演で発表される。

John Gibson 博士

スコットランド ダンディー大学

Allergy is everything!

アレルギーはすべて

John Gibson はダンディー大学歯科病院&学校の口腔内科学の名誉講師である。また、米国北カルフォルニア、シャロットにある口腔内科学の客員教授である。彼はスコットランドにおける卒後歯科教育の准学部長である。さらにそれ以前はグラスゴー大学歯科教育の準学部長をしていた。John の PhD 論文は口腔肉芽腫のアレルギーの混乱の研究である。

アレルギーの混乱は増加している。しかし、多くの患者は明確な証拠もなくアレルギーがあると信じている。事実、特に歯科では、アマルガムから亜鉛まで、すべてへのアレルギーは多く、多彩な症状を引き起こしているかもしれない。この証拠ベースの講演はアレルギーの科学的根拠と歯科治療における臨床表明をアレルギーがどのように口腔領域に影響するかを示す。歯科チームはアレルギーの混乱について議論と管理を重ねながら患者の期待に答える。

ラーニングアウトカムズ

1. アレルギーの混乱について科学的根拠を理解する。
2. 職業的アレルギーを含むアレルギーの混乱の一般及び口腔症状を理解する。
3. 歯科環境における患者のさまざまな症状のアレルギークレームを管理する。

Warren Greshes

アメリカ 国際スピーカー

Adding value to the dental practice

歯科医療への付加価値

Warren Greshes、彼のプレゼンテーションは基調講演を芸術的につくりあげると言われている。ニューヨークの生き残りの厳しい服飾産業の回転石臼の上で、彼は10年間セールスマネージャーとして過ごす。彼の電化スタイルのセールス本能を取り入れた講演は忘れがたいものになるであろう。セールスモチベーションと個人的且つ専門的能力開発の専門家として、Warren は世界中の企業、団体、小さな集団に講演をしている。

歯科医療の成功は歯科医の能力や質だけではない。歯科医療チームの質と適正にある。この非常に愉快で有益で実践的な講演で、Warren Greshes は貴女のキャリアを高めるための簡単なアイデアを与えてくれるでしょう。また歯科医、治療、患者にとって不可欠な存在となるでしょう。

ラーニングアウトカムズ

1. 歯科医療において素晴らしい文化を築く。競合的ビジネス的に医療を変えることで貴女自身がより重要な医療スタッフとなる。
2. セールスパースンとしてではなく患者に解決策を売る専門家、アドバイザーになることで、より多くの商品の販売をし、利益を得ることができる。
3. 歯科医の時間を節約することや生活をより安易にすることが不可欠になり医療もより向上する。

Francis Hughes 教授

英国 ロンドン キングズカレッジ 歯周療法学部教授

Periodontitis – a modern disease requiring new treatments

歯周病 — 新しい治療を必要とする近代疾患

Francis Hughes は1979年ガイズ病院にて卒前研修を完了した。それから卒後臨床、リサーチ研修をロンドン病院医療教室にて行い、またトロント大学にて博士号習得後リサーチ委員をおこなった。1999年バーツ&ロンドンの歯周療法学部の部長に任命された。そして2009年、現在の地位、KCLの歯周療法学部教授になった。

彼は熱心でまじめな教師である。また、外部の大学院生プログラムでは人気の講師である。彼のリサーチ的興味は、歯周病の因果関係学と進行、および組織再生の生物学的メカニズムに影響を及ぼす危険因子を理解することを含む。

Francis は現在、歯周療法学の英国協会の会長である。また、IADR(国際歯科リサーチ協会)のパンヨーロッパ連合の前会長である。彼は歯科リサーチジャーナルと歯根リサーチジャーナルの編集局にて勤める。

講演は、現代の生活とライフスタイルの局面がどのように歯周病の主要決定基であるか、そして、これがどのように管理への治療の必要性とホリスティックなアプローチに影響を与えるかを示す。歯周病はプラークの蓄積によって起こることに気づく。しかし、プラークは疫学的に主な因果関係があるが、多くの人はプラークで重症歯周病になっていないという証拠があがってきている。他の主な危険因子として2つの、それは喫煙と糖尿病という問題が関係している。これらのことから歯周病はおそらく現代の疾患である。

適切なプラークコントロールが一般的には歯周病予防に大変効果的な方法ではあるが、患者の中には不均衡な治療の挑戦を続けている。このことから歯周疾患の進行に影響を及ぼす因果関係から違った治療法が必要ではないかと推論する。

ラーニングアウトカムズ

1. 最近の研究から歯周病の因果関係を理解する。
2. 喫煙と糖尿病からの歯周病への影響を知る。
3. どのような危険因子の管理が治療向上につながるか。
4. 歯根膜治療としての禁煙を理解する。
5. 歯周病の全く新しい治療法の開発の可能性に気づく。

Tracey Lennemann

ドイツ 国際プロフェッショナルスピーカー、トレーナー、歯科衛生士

The dental hygienist in the new millennium

新世紀における歯科衛生士

Tracey Lennemann は国際プロフェッショナルスピーカー及びトレーナーである。彼女は1986年以来、米国やヨーロッパにて臨床歯科衛生士として活躍されている。

さらに歯科衛生の準学士を修得（米国ワシントン、スポケイン）。また、イースタン ワシントン大学の学士号を修得。1988年よりドイツミュンヘンにて歯科衛生に従事。この間、彼女はさらなる効果的な予防歯科トレーニングの必要性を感じる。歯科医療のために継続的な教育ワークショップの開発をした。

この強固なプレゼンは貴女に歯科衛生士としての役割を考えさせる、そして最大限の可能性を示してくれる。革新的挑戦、よりよい治療法、開発された技術は徐々に紹介されるでしょう。2010年はあなたのキャリアを刺激し、自身をモチベートしよう。

ラーニングアウトカムズ

1. 30分の除石と研磨から1時間の歯周病管理アポに変更するステップを示す。
2. 歯周病治療の予防から治療法のオプションの概念を与える。
3. 新しい技術とより高度な非医療的歯周病治療の開発を紹介する。

Michael A. O. Lewis 教授

ウェールズ地方 カーディフ大学歯学部口腔内科学教授・大学院副学部長

The role of the dental hygienist in the diagnosis and management of dry mouth

ドライマウスの診断および管理における歯科衛生士の役割

Michael Lewis はカーディフ大学歯学部・口腔内科学の教授であり大学院副学部長である。また、グラスゴー・内科・外科王立大学歯学部副学部長でもあり大学の副学長も務めている。著書には200以上の専門論文、6冊の医学教科書・共著があり、世界中で500回以上の卒業研修セミナーをされている。

教授はイギリス口腔内科学会の元代表であり、薬物乱用諮問委員会（本部）の元歯科メンバーでもある。現在は抗菌薬耐性およびヘルスケア合同感染科学諮問委員会（保健部）の歯科メンバーである。

教授の研究はカンジダ菌を含む細菌の病原性、抗菌の感受性、口顔のヘルペス性感染、抗体作用や感染予防の治療法に関与している。

唾液が適度にあることは口内の健康を維持するのに不可欠であり、大小の唾液腺内にどれほどの唾液が作られるかが分

かる。講演では唾液腺の形状による唾液の状態について説明する。唾液は口腔組織や微生物叢に影響を与える有機物・無機物のスペクトルを含む流体コンプレックスである。唾液の機能は話したり、食べたりするために口腔内の潤滑を助ける身体的特性だけでなく、口腔内の微生物から歯や粘膜を守る科学的物質としても存在する。唾液の重要な役割は齲蝕を予防するために最も重要なブラークの酸度に対する緩衝能である。粘膜の変化や無機質化された組織への影響が含まれた唾液の流れを減少させた臨床的結果のスペクトルは報告されていくであろう。減少した唾液量（口腔乾燥）は通常は5つのうち1つが主な原因である、すなわち薬物療法、放射線療法の前段階、診断されていない糖尿病、免疫不全による結合組織の病気（シェーグレン症候群）、あるいは発育障害である。口腔乾燥は人口の3分の1に発症していると報告されており、欧州では頻繁にある臨床症状のひとつである。

講演されている口腔乾燥症の全ての原因は臨床的・放射線学的・組織病理学的・血液病学的の研究によって、適切に概説されていくであろう。最後に、講演は現時点での口腔乾燥症の管理の再検討をさせていただく。

治療の取り組みは代用唾液、唾液誘発剤の使用を基としているが、口腔の健康を維持する予防薬の評価もする。

ラーニングアウトカムズ

1. 唾液の性質、唾液生産量の要素について理解を深める。
2. 唾液量の減少の前兆や徴候を見極められるようになる。
3. 口腔乾燥症の疑いがある患者の診査、管理について知識を得る。
4. 感染者への治療方法。
5. 歯科衛生士の重要な役割を理解。

Isobel Madden 博士

インヴァネス地方 スコットランド高地 アイランドミレニアムインスティテュート大学（UHI）口腔衛生科学部共同
学長：NHSエデュケーションスコットランド（NES）トレーニングアドバイザー

Flexible learning: a new dimension in health provision

柔軟性のある学習:健康対策における新たな形

Isobel Madden は20年以上の臨床経験もつ歯周病学の専門家であり、スコットランド3歯科学校の1つにおいて、臨床歯科学の修士教育課程を希望する農村地方で働く歯科医師を、専門的に、経済的にサポートするためのNES、スコットランド歯科卒後研修奨学財団に任命され2005年スコットランドに戻った。

博士は英国全土、国際的にも講演をし、広範囲にわたる業績を持つ。この講演は歯科衛生士・セラピストの役割において特別に学部生・卒業生レベルに合わせ、健康管理での学習の状況に合わせた使い方について概観したものである。

ラーニングアウトカムズ

1. 健康管理教育での学習の柔軟性により気付いたこと。
2. 健康管理教育を供給する上での擬似的な環境技術の学識を持つこと。
3. 歯科衛生士・セラピストの学部生教育において、柔軟性のある学習方法。

Philip Preshaw 教授

イギリス ニューキャッスル アポン タイ ・ニューキャッスル大学歯学部

Patient-centered therapy & outcomes: effective management of dentine hypersensitivity

患者を主体とした治療とその効果；象牙質知覚過敏の効果的な管理

Philip Presha はニューキャッスル大学の歯周病科教授であり、補綴科の医局長である。1997年ニューキャッスル大学で歯科医資格を取得し、1997年歯周病学の博士号を取得した。歯周病専門医として登録され、エディンバラ王立歯科大学の特別研究員でもある。ニューキャッスル大学で研究と教育に積極的に携わり、アメリカ合衆国・オハイオ州立大学歯周病科前准教授でもあった。Presha 教授は頻繁な講演や共著である臨床歯周病学教本2冊、査読済み科学雑誌での数多くの業績があり、保険/医療研究会全国臨床医科学の英国担当の1人である。

歯科研究の国際団体より著名な科学者賞を受賞(2008年)、歯科研究への貢献により2008年エディンバラ王立歯科大学よりキング ジョージ4世教授職をさらに授与された。

ラーニングアウトカムズ

1. 患者の観点からの象牙質知覚過敏の症状を理解する。
2. 象牙質知覚過敏の効果的な管理の新技术を知る。

Christoph Ramseier 博士

スイス ベルン大学歯周病科 准教授

The benefits of motivational interviewing in tobacco use cessation provided by dental hygienists

歯科衛生士による禁煙のモチベーションインタビューの効果

Christoph Ramseier はスイス・ベルン大学歯周病科の准教授であり、アメリカ合衆国・ミシガン大学の客員教授である。氏は個人開業をし、さらにベルンの歯科衛生士学校において講義もしていた。スイス特別専門委員会；喫煙—歯科医療での介入の設立者である。臨床研究結果では歯周炎・インプラント周囲炎である喫煙者は、歯周組織の改善、治療効果を制御させるであろう関連を示した。

現時点での科学的根拠では、バイオフィルムの除去の次に禁煙が歯周炎の管理で最も重要なことは明らかである。

ラーニングアウトカムズ

1. 喫煙の悪影響の理解
2. たばこの文化と禁煙者の心理社会的側面。
3. 禁煙サポートの適切な方法とスキルを習得する。

歯周病を伴う喫煙者においては、科学的根拠に基づいたインプラントを含む歯周治療のための体系的なアプローチは禁煙のための段階的なプロトコールの実施に適合しているようである。

このプロトコールの目的は、“アシスト”と“アレンジ”を“5A's” (Fiore et al.2008) から、歯周病治療計画のために採択することである。包括的な行動変容は医学的背景によるニコチン置換療法(NRT)の見せる効果と同時に進行される動機付け面接の適切なコミュニケーションスキルにより支えられる。現在禁煙予防・禁煙の動機付け方法の様々なプログラムが歯科においても研究されている。

Steve Rollnick 博士

ウェールズ 臨床心理学者 クラディフ大学初期医療(プライマリケア) 公衆衛生学
健康管理コミュニケーション教授

How many times must I tell you? Motivational interviewing, dentistry and behavior change

何度話すべきであろうか？モチベーションインタビュー、歯科と行動変化

Steve Rollnick 博士は16年間英国・国民健康保険事業において開業心理学者であった、その後コミュニケーションを主とした研究者・教育者となった。氏は Motivational Interviewing(モチベーションインタビュー) (Miller & Rollnick, 1991; 2001)、Health Behaviour Change(健康への行動変容) (Rollnick, Mason & Butler, 1999) を執筆し、近著には Motivational Interviewing in Healthcare(健康管理の動機付け面接) (Rollnick, Miller & Butler, 2007) がある。博士の主なテーマは病院や初期医療におけるの療法指導である。広範囲の学術雑誌が出版され、7大陸の多くの国々で臨床家が教えられた。氏の現在のテーマはアフリカの国々の HIV エイズの子供たちを治療する臨床家のトレーニングと、臨床家のための学習プログラムのソフトウェアの開発である。このセッションは歯科医療で患者に行動変容への動機付けをした時直面する、一般的問題が最重要点になるであろう。それらは食事療法や喫煙と同じように、外科手術の通院、セルフケアの実施も含む。

氏は簡単なコミュニケーションの方法の手本の紹介や異なった方法行動変容へ動機付けされた人に効果があるように違う方法、過程について解説する。そして日々の歯科臨床においてされた行動変容の取り組みについて、モチベーションインタビューの方法について説明する。

ラーニングアウトカムズ

1. 日々の歯科臨床を管理するための行動変容への取り組みの項目を把握する。
2. 状況に合わせたコミュニケーションの方法の選択について学ぶ。
3. 望んだ行動変容へのモチベーションインタビューと基本的な誘導方法について理解する。(通院、セルフケアの実施、喫煙、食事療法)

Ann-Marie Roos-jansäker 博士

スウェーデン 歯周病学の専門家

The peri-implantitis patient-the role of the dental hygienist

インプラント周囲炎の患者 - 歯科衛生士の役割

Ann-Marie Roos-jansäker は初め一般開業医としてキャリアを積み、この分野に10年以上取り組んでいる。卒後研修を期間の後に、2002年に歯周病学の専門家として認定された。

2007年には論文「Long time follow-up of implant therapy and treatment of peri-implantitis. (インプラント治療の長期間にわたるフォローアップとインプラント周囲炎の治療)」を発表した。インプラントの周囲におこる炎症は大変興味深く、このテーマについての研究を継続して行った。

インプラント周囲炎はインプラントにおける合併症とも言える。臨床的症状としては、炎症と進行性の骨吸収がみられる。もしその時点で診断しなければ、結果的にインプラントが脱離してしまう可能性がある。歯科衛生士はインプラントの患者のケアを行う上で重要な役割を担っている。個人の支持療法は最優先で行わなければならない、炎症の初期兆候はその後骨吸収が起こらないように治療されるべきである。インプラントの患者を治療するのに、歯科衛生士はどのような課題に直面することになるのだろうか。

ラーニングアウトカムズ

1. インプラントの周囲に起こる炎症の意味を理解すること。
2. 感染を診断する方法。
3. リスクファクターを理解し、リスクのある患者を見分けること。
4. 感染を予防する方法。

5. 感染を治療する方法。
6. 歯科衛生士の重要な役割を理解すること。

Jean E. Suvan

英国 ロンドン 歯周病科、イーストマン歯科研究所

Best end by best means: brief interventions in health behavior change

最良の手段により導かれる最良の結果 ～健康行動の変容における短期的介入～

Jean Suvan は、カナダにあるアルバータ大学にて歯科衛生士の免許を取得し、つい最近、オックスフォードでエビデンスに基づく健康管理分野の修士号を取得した。ヨーロッパに移り住んだときに、スイスにあるベルン歯科大学にて勤務した。現在は、ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジのイーストマン歯科研究所にある歯周病科にて、教育や臨床試験の管理、そして博士号関連の研究に取り組んでいる。

歯科衛生士として25年以上にわたる経験は、一般開業医や歯周病専門の開業医、公衆衛生、開業コンサルタント、教育、研究にも及んでいる。アルバータ歯科衛生士協会および、国際歯科研究協会（IADR）における口腔保健研究会の会長も務めた。さらに、数多くのジャーナルで編集委員としても関わっており、論文および書籍の共著者でもある。国を問わず、様々なグループに対して講義を行っている。

プラークのバイオフィームは、歯科チームが直面する一般的な課題の一つである歯周疾患の原因であり、たいいていの口腔疾患と関連がある。慢性の炎症性疾患である歯周炎は治療よりもコントロールされるものなので、継続的に患者自身によるケアを行ってもらうために、熱心な患者教育をする必要がある。治療を成功させるカギは、患者ごとに有益な健康行動の変容を促し、維持するという臨床家の能力にある。モチベーションインタビューは、「**facilitative approach to communication that evokes natural change** (自然な変化を引き起こすコミュニケーション促進法)」（Miller & Rollnich, 2002）であり、さらに臨床家が、患者との会話能力を最大限に発揮できるようになる。

コミュニケーションの形式や方法は、かける時間の長さよりもより影響があることが示されてきた。モチベーションインタビュー（MI）の法則に基づいた「短期的介入」により、患者自身がプラーク除去を上手にできるようになるという結果が示されてきた。このプレゼンテーションは、クリーニングのための通院の間隔が開く際に短期的介入を行い、最良の手段による最良の結果へ、いかに達するかに焦点を当てている。

ラーニングアウトカムズ

1. 望ましい治療を成功させるカギは、良好な口腔につながる健康行動変容を促し、維持するという臨床家の能力にあるということを理解する。
2. モチベーションインタビューの技法を身につけることで、患者の変容がどのように引き起こされるか理解する。
3. モチベーションインタビューにより、臨床家・患者間の会話能力をどのようにして最大限にするか、そして、どうすれば患者自身が良好なプラークコントロールを維持できるかを学ぶ。

Margie Taylor

スコットランド 歯科保健所長

The Preventive message in Scotland

スコットランドでの予防に関するメッセージ

Margie Taylor は2007年3月に歯科保健所長に就任したが、それ以前はラナークシャーにある歯科公衆衛生局長を務めていた。1994年にラナークシャーの国民健康保険に関わる前は、ファイフ州とロジアン州における歯科の最高総務責任者として、そして臨床家としても働いていた。彼女は、1998年から2006年の間、スコットランドの国民健康保険における衛生部門の役員として任に当たり、スコットランドの国民健康保険における国際教育の歯科委員会では議長を務めた。エディンバラで生まれ育ち、テイラー氏は1987年にエディンバラ大学を卒業した。1985年にはエディンバラ大学で地域医療に関する修士号を、1996年にはヘリオットワット大学でMBAを取得した。彼女は、エディンバラの英国外科医師会およびグラスゴウの英国内科・外科医師会の口腔外科における研究員であり、公衆衛生および一般歯科診療部門の研究員でもある。Taylor氏はまた、セントアンドリュース大学、グラスゴウ大学、そしてダンディー大学の名誉上級講師としての任にも当たっている。スコットランド政府の方針の文章を配布して、チャイルドスマイルプログラムの詳細を説明しながら、スコットランドにおける予防への取り組み方法の背景について話していく。スコットランドの口腔保健の水準について説明がなされ、それらを改善するための向上の指標が作られつつある。

ラーニングアウトカムズ

1. スコットランドの予防への取り組み方法に対する、論理的根拠を理解すること。
2. チャイルドスマイルプログラムについて学ぶこと。

John Thomas 教授

アメリカ 国際的な講演者および研究者（高度先端研究所長）

The new frontiers of biofilm management; restorative microbiology and tailored comprehensive oral care

バイオフィルムのマネジメント最先端 ～環境改善の微生物学とオーダーメイドの口腔清掃～

Thomas 教授は現在、ウェストバージニア大学のバイオフィルム研究所長を務めており、医学、歯学および産業に関する基礎研究から応用分野におよぶ研究を行っている。彼は、3大学連合の国際的多施設バイオフィルム研究所を創設した。

彼は近年、カーディフ大学の医歯学部で半年間の特別研究期間を終え、16カ国で講義をしながら各国をめぐった。2008年には、Thomas 教授は米国歯科医師会の科学諮問委員会に招聘された。2009年には、当歯学部より学生研究の発展に貢献した賞を受賞した。

口腔細菌叢は最も複雑、多種多様で人類に共通の微生物叢である。そして、デンタルプラークのバイオフィルムとして抵抗性の構造を持ち、1000もあるどの系統種よりも強力である。これは各個人で異なり、口腔および全身の健康や疾患を予測することが可能である。歯肉炎、歯周病そして歯髄疾患はしばしば口腔のバイオフィルムが増えて不均衡になった状態につなげて考えるが、ちょうどあまり認識されていない環境問題のように、年齢と共に口腔細菌叢において劇的な変化が伴う、一連の系統的な疾患の数の増大につながっている。これらの疾患は糖尿病、肥満、慢性感染、低体重児出産、心内膜炎、下気道感染症を含むが、アテローム性動脈硬化、循環器疾患そして関節炎を強調しておく。これは、入院前の高齢者で顕著である。疾患の仲介は①微生物の不均衡②炎症との関連性の両方があげられ、後者は分子擬態を用いた慢性的炎症によってである。病原性は、「抵抗性コロニー形成」と多剤耐性に関連している。

3Dのリアルな定量的顕微鏡画像とSEM像を使って、口腔細菌叢が不均衡になることで引き起こされる破壊を中心に、歯学と医学を統合する新しい国際的戦略にも言及する。そして、①機械的デブライドメント②殺菌性洗口剤③体によいバクテリア④4つの潜在的介入としての抗感染を日常的に行い、年齢に関わらず口腔内を健康的な細菌に戻していく、オーダーメイドの包括的口腔清掃について説明する。最適効果にとって、これらの選択は全身性疾患を逆進させるために同時

に行わなければならない。

ラーニングアウトカムズ

1. 口腔内細菌と年齢によるその構成の変化を、個人特有の特徴として明確にすること。
2. バイオフィルムの細菌特有の特徴、口腔内細菌や自然界への適用を認識すること。
3. 入院患者および外来患者における、口腔と全身性疾患の関連性を認識すること。
4. オーダーメイドの包括的口腔清掃の重要性について理解すること。
5. 歯科口腔外科において行動変容を達成するために広く認められている心理学的方法を用いる立場にいること。

Kirsten Warrer 教授

デンマーク オルフス大学 歯周病科准教授、王立歯科医師会

Occlusion and periodontal disease

咬合と歯周疾患

Kirsten Warrer は歯周組織再生の分野で博士号を取得した。彼女は歯周病学に関するテーマでは有名な講演者であり、国外で200以上もの講演を行ってきた。彼女の研究に対する関心は、歯周組織再生と歯周外科である。講演では、重度の歯周組織破壊が起こっている患者の治療において、どのような戦略で成功するかに焦点を当てる。予防のための行動変容を起こすために、どのように関わっていくか。治療の目標とは何か、そして治療計画をどのように立てていくか。

ラーニングアウトカムズ

1. 歯周組織破壊の治療に対して、成功する戦略をどのように選ぶか確立すること。
2. 予防の手段として行動変容に関するコミュニケーションを検討すること。
3. 治療計画に対する目標を検討すること。

Fridus Van Der Weijden 博士

オランダ ユトレヒト大学歯周病外来、ACTA (アムステルダム)

Oral and systemic link

口腔と全身の関連

Fridus Van Der Weijden 博士は、オランダのユトレヒト大学で歯周治療専門医としての訓練を受け、1984年に卒業した。1984年、彼はオランダ歯周病学会に認定された。1993年、彼は「模型とプラーク指標と歯肉炎検査の使用」と題した博士論文を主張した。2000年、彼はオランダ歯科医学会によって上級研究員として認定された。2005年、彼は口腔インプラント学会からインプラント専門医として認定を受けた。1986年からは、Fridus Van Der Weijden はユトレヒトの歯周病外来と ACTA を往復する生活をしている。彼の研究の主な焦点は、歯周疾患の予防と治療である。彼は大学院課程の講義を多数行っており、「The Power of Ultrasonics (超音波の力)」という題の本の著者である。彼はまた、予防歯科学の本の共著者・共同編集者でもある。彼は約60の国内の出版物、約130の国際的な出版物を執筆または共同で執筆してきた。2009年、彼の口腔健康の促進・予防における彼の働きに対して、Carl Witthaus 勲章アイボリークロスが授与された。2010年初め、彼はアムステルダム大学の教授に就任した。そこでの彼の研究の主な焦点は、歯周感染症の治療と予防である。この大学教授の職の設立は、オランダ歯周病学会による取り組みの成果であった。

ラーニングアウトカムズ

詳細は講演で演者によって発表される。

90 席セッション

Mhari Coxon

The Tissue is the Issue- Motivating your patients to be gum smart

組織が肝心 - 患者に歯肉をひきしめるよう動機づけする

コースダイル共催

あなたは、「半年ごとに歯医者に行っているのに私が歯周病だとは話さなかった」または、「私は1日2度歯を磨いているけど、どうしてこんなことになっちゃうの」と言う歯周疾患の第2段階の患者を何度経験したことがありますか？これは患者が情報を取り入れられないのか、または私たちの患者との効果的なやりとりの失敗なのか？もしくは両方とも少しづつあるのか？この対話式ワークショップでは、すべての患者と毎回歯肉の健康について話し合うために私たちはどのようにチーム全体を使うか、歯周の健康への関心と予防の効果を高めるための積極的促しの活用について考える。

ラーニングアウトカムズ

1. 患者への最適な助言を決めるためにリスク分類を使う利点への気づき
2. 患者とのコミュニケーション・モチベーションツールとしてインタビューを使う利点を理解する
3. 患者の口腔健康のために患者自身が責任を負うことの重要性を理解する
4. 意欲を引き出すインタビュー技術の紹介
5. ワークショップでの質問を取り上げ、彼らと彼らのチームを助け、これを彼らの実践の中に取り入れる

Leah MacPherson 教授 (登録歯科衛生士、理学士、保健専門職修士)

Contemporary Options with Periodontal Scaling

歯周歯石除去の現代的選択肢

ヒューフレディー共催

Leah MacPherson は、アメリカのニューイングランド大学で歯科衛生準学士、フォーサイス歯科衛生士学校で上級歯科衛生士免許、ボストンのノースイースタン大学で修士を授与された。彼女は7年間、フォーサイス歯科衛生士学校で助教を務め、ボストンの歯周研究センターのフォーサイス研究所で、研究責務を果たした。Leah は現在、マサチューセッツ州ローエルの中ドルセックスコミュニティ大学の教授である。彼女はまた、アメリカ合衆国の全国指導優秀賞受賞者でもある。彼女は一般・歯周・公衆衛生での経験をもつ。彼女はまた、多くの地方・全国・国際的な会議に出席している。研究は今なお、歯周病のメンテナンスと治療へのカギはバイオフィルムと歯石の機械的除去であることについてである。これらの刺激物を除去するためには、歯科衛生士は器具の選択への注意と、重大な意思決定スキルを応用することが必要である。このコースでは、最新の手用器具と動力技術の変化にハイライトをあてる。発表では、器具の使用技術・選択・能率、器具の操作でよくある落とし穴の防止、手動・電動歯石除去両方の課題について話し合う予定である。他の話題として以下を含む：アフターファイブ、マイクロミニ、ダイヤモンドファイル、スィベル(回転)技術、改良された動力技術。

ラーニングアウトカムズ

1. 現代歯科衛生における手用器具・電動器具の操作の役割について議論する。
2. 手用・電動器具の操作の様々な選択肢について述べる。

3. 器具の選択の重要性と選択の意味について議論する。
4. 器具の操作でよくある落とし穴を確認し、それらを避ける方略。
5. 臨床技術に関する圧電と磁歪技術の比較。

Dani Botbyl, Marie George & Cindy Sensabaugh

Form Follows Function- Busting the Myth of insert Selection-

形は機能に従う - インサート選択の神話の崩壊

デンツプライ共催

このコースは、デブライドメントとバイオフィーム除去のための適切なチップ(先端)の選択に関しての実践ガイドラインを臨床家に提供するため、現代の科学的論文と科学的根拠のある戦略に基づいている。

ラーニングアウトカムズ

1. 標準・スリム・改良型湾曲インサートの比較対照。
2. 臨床的結果を高める様々な沈着物除去のためのインサートの選択。
3. 様々なインサート・チップを区別し、それらの機能を理解する。
4. 適切なメンテナンスと滅菌手順を確認する。

Solenn Hourdin 博士 & Diminique Glez 博士

Ecological Periodontal Treatment for Long Lasting Healing

長期にわたる治療のための生態学的歯周治療

NSK 共催

このセッションは、相補的ワークショップに理論基盤を提供する。

Lillian Caperla

Implementation of a Successful Caries Risk Assessment and Therapeutic Treatment Plan

上手な齲蝕リスクアセスメントの推進と治療計画

プレミアデンタル共催

このワークショップでは、再石灰化と脱感作の根拠に基づく治療を取り入れに加えて、Fiona Collins 博士によって提供された CAMBRA 検査(リスクアセスメントによるう蝕管理)の使用の推奨を支持するエナメル質の治療の情報を拡大する。

ラーニングアウトカムズ

1. 診療所の環境における CAMBRA 検査使用の重要性について理解する。
2. 患者の口腔健康を改善する過程と効果的な製品の使い方について学ぶための相互の議論。
3. 最新の製品技術: ACP(酸ホスファターゼ)、リカルデント、ノバミン、プロアルギンの比較と、エナメル質の健康に対する影響。
4. 様々な状況における上記製品の選択の理由の証明。

5. 製品活用のデモと、それらの将来と限界について議論する。

Michaela O'Neill

Stuck in a Pocket

ポケットにはまり込む

オブティデント共催

患者を治療しているとき、あなたはすべての焦点がそのポケットにはまり込んでいると感じますか？歯石を見つけて除去する毎日の繰り返しに固定され、あなたは何ができるのか見失っていませんか？歯石を探求するのに集中している間も、事態は動いている。器具の進化や発展は、私たちの業務を簡単にするだけでなく、治療の選択肢の提案も変化させた。このワークショップでは超音波の新たな発展に狙いを定め、また歯科衛生士の治療提案の変化を助ける新技術のアイデアを切り出す。

ラーニングアウトカムズ

1. 歯科衛生士の治療提案の変化を助ける新技術のアイデアを切り出す

ハンズオン セッション

Peter Galgut 博士

Getting to the Root of the Problem

問題の歯根にたどり着く

アメリカンイーグル協賛

現代の歯根表面のデブライドメント技術の紹介

- 歯周病の本質の概念を変える最新の研究の紹介
- 最新器具の最も効果的な使い方についての段階的指導
- 臨床時間を最大限すばやく効率的に使う最もきれいな歯根面にする

ラーニングアウトカムズ

1. 歯周病患者の治療結果を改善する臨床応用技術を学ぶ。

Nadine Muhlenberg

Icon

アイコン

DMG 共催

アイコンは 2009年に開始される前の10年間、研究と発展の段階にあった。50以上のアイコンに関する論文が書かれ、性能について十分に裏付けがされた。アイコンとは、初期段階の齶蝕の阻止と予防のためのシステムである。対象となるのはX線で発見または目視でき、“w”でマークできる初期の損傷である。それらの初期病変を発見し、それらを再石灰化し

ようとするときの問題は、それらの多くは侵襲的な充填を必要とする時点まで進行してしまうことだ。それらの初期病変は口腔清掃や食事が適切にコントロールされていない若者によく起こり、それゆえ初期病変はより進行しやすい。アイコンは、齲蝕の進行の物的障壁として働く治療の短い3つのパートである。最初に初期病変を酸処理し、アルコールで乾燥させる。アルコール乾燥の段階で、初期病変は穴だらけで吸収性になっており、ここはレジンを加えるのに残す。レジンは初期病変に吸収され、光重合で障壁が形成される。この体験型セッションでは、アイコンの材料とシステムの簡単な解説と、アイコンがどのように作用するのか模型上での試用ができる。アイコンは、以前は不可能だった初期の段階の齲蝕を処理する機会を与える。充填の必要性を減らし、患者の治療をより優しい方法とする。これは、以前には存在しなかった別の収入源の営みを与え、治療法を選択する際に患者に他の選択肢を与える。

ラーニングアウトカムズ

1. 初期齲蝕の阻止と予防のシステムを理解する

Dani Botbyl, Marie George & Cindy Sensabaugh

Form Follows – Busting the Myth of insert Selection -

形は機能に従う - インサート選択の神話の崩壊

デンツプライ共催

このコースは、デブライドメントとバイオフィilm除去のための適切なチップ(先端)の選択に関しての実践ガイドラインを臨床家に提供するため、現代の科学的論文と科学的根拠のある戦略に基づいている。

ラーニングアウトカムズ

1. 標準・スリム・改良型湾曲インサートの比較対照
2. 臨床的結果を高める様々な沈着物除去のためのインサートの選択
3. 様々なインサート・チップを区別し、それらの機能を理解する
4. 適切なメンテナンスと滅菌手順を確認する

Solenn Hourdin 博士 & Diminique Glez 博士

Ecological Periodontal Treatment for Long Lasting Healing

長期にわたる治療の生態学的歯周治療

NSK 共催

今、歯周病の治療は、超音波のマイクロインサートや調節可能な超音波発生器の発展のおかげで有効なものとなった。治療は非外科的な再建に基づき、感染部位の多くを安定化させることができる。炎症は、その部位の応答が評価の参考に役に立つので、優先的に治療されない。様々なプロトコルが適用され、それらは病型：急性か慢性か、穏やかか深刻かによって決まる。このセッションの目的は、それぞれの臨床現場で手順を活用するための実用的基礎を立案することである。歯周治療(PT)のこの方法は、歯周感染の包括的治療の道を開いた。

歯周感染の超音波治療：

振動発生メカニズム；超音波の効果

発生機の説明と主なインサート；超音波の基本原則(PT)

ラーニングアウトカムズ

1. 振動運動の理解；振動を最大限利用する。
2. イリゲーションの役割。

3. 作業域の位置決め；作業技術を学ぶ。

4. 力の調節；触覚感度の改善。

マイクロインサートの使い方と適用：

ストレートマイクロキュレットインサート；屈曲型マイクロキュレットインサート；ダイヤモンドコーティングされたラウンド型マイクロインサート

臨床ガイド：

歯周治療の組織化。以下のための様々な治療プロトコール：初期の慢性歯周炎；重度の慢性歯周炎；侵攻性の歯周炎